

ゼロメートル地帯の高潮対策検討会

1. 目的

本年8月25日に米国フロリダ半島に上陸・横断したハリケーン・カトリーナは、米国のハリケーンカテゴリーの最大であるカテゴリー5（風速70m/s～、中心気圧920ミバール以下）の勢力となり、ニューオーリンズ市をはじめとするメキシコ湾岸沿いで壊滅的な高潮災害をもたらし、同市の約80%が浸水した。

我が国における主な高潮被害は、昭和25年のジェーン台風、昭和34年の伊勢湾台風、昭和36年の第2室戸台風などがあり、伊勢湾台風については、河川や海岸の堤防などが破堤し、浸水面積約310km²、死者行方不明者が5千人を超えるとともに、流出・全半壊・浸水家屋は35万戸を超える大災害であった。

これに鑑みて、三大湾（東京湾、伊勢湾、大阪湾）においては伊勢湾台風級の台風が来襲した場合の安全性を高めるように防護施設の整備が進められてきた。しかしながら、近年大型の台風が頻繁に来襲しており、また、三大湾のゼロメートル地帯などの低平地は中枢機能が集積し高度な土地利用がなされていることから、ハリケーン・カトリーナに見られるように一度浸水が起こると大災害につながる。

このことから、学識者等による検討会を設け、ゼロメートル地帯の高潮対策はいかにあるべきかについて提言を得る。

2. 主な検討事項

- ・カトリーナ被災の検証と我が国の高潮対策の評価
- ・高潮対策の安全度を評価する外力のあり方
- ・今後の効率的・効果的な整備のあり方、進め方
- ・大規模高潮時の危機管理のあり方
- ・防護施設とあわせた市街地側対策等の総合的な高潮対策のあり方